

全ての「社長のひとりごと」がWEBで読める！
『くぼかわよしみち.com』毎月20日更新!!

くぼかわよしみち.com

検索

ホームページ

asahiglobal.co.jp
 | global-mie.co.jp
 | super-chintai.com
 agg-hd.co.jp
 | goldtrust.co.jp
 | goldage.co.jp
 | otona-souzoku.com
 | kubokawayoshimichi.com



アサヒグローバル株式会社 代表取締役
 ゴールドトラスト株式会社 代表取締役
 ゴールドエイジ株式会社 代表取締役

文／久保川 議道

text:Yoshimichi Kubokawa

『PPK』と『NNK』と健康寿命

『健康寿命』という言葉をご存知でしょうか。健康寿命とは健康上の問題がない状態で日常生活を送れる期間です。健康寿命が尽きたとき人は自立して生活できず介護者の力が必要となります。つまり平均寿命－健康寿命＝寝たきりや認知症などで介護がなければ生きることが困難な期間となりますね。

2001年のこの平均寿命と健康寿命の差は男性で8.7年。女性で12.3年。なんと平均10年以上日本人は自立して生きられないという結果でした。しかし2010年の結果は健康寿命は増えたのに平均寿命が増えたことによつて、男性9.1年。女性12.7年になってしまつて、要介護期間がさらに伸びてしまいました。残念というか皮肉な結果ですね。

私も含めて高齢者はPPK・ピンピンコロリを願うのですが、この結果を見ると日本人の平均は10年以上のNNK・ネンネンコロリとなつてしまいます。もう神様・仏様にお願ひするしか方法がありませんから『ピンピンコロリ地蔵さん』への祈願がブームになつていゝんですね。この気持ちは私にも十分に理解できます。

私自身の希望はPPKですが、ピンピンコロリは医学的にいうと『突然死』で

すから、これは困ります。突然に死んでしまふと、最後の挨拶もできませんし、家族へ言い残したいことも言えずに多くの悔いが残りますね。まあ二週間ぐらいのPPKが理想ですがそう上手くはいかないでしょう。

その理由は年間120万人がお亡くなりになるのですが90%の108万人が病院で最期を迎えられます。日本には尊厳死という制度がありませんから、病院の使命目的は『延命治療』となります。意識のはつきりしない人が数ヶ月、数年間の延命治療で生きながらえているのが日本の特色ですね。考えてみれば日本は平穏死ができていく国だといふことですね。

本当に目指すべき最期は『平穏死』で、生命の終わりに無理な延命を行わず、人間としての尊厳を保ちながら穏やかに旅立つこと……ではないでしょうか。私も死ぬ間際になれば何を言ひ出すか分かりませんが、今は二応できれば平穏死を希望いたします。病院に入つてしまふとそれはできませんし、延命治療の薬づけと、5本10本の管で体中がいっぱいになることだけは避けたいと希望します。

やはり病院以外ならゴールドエイジが良さそうですね。施設ではなく自宅

で住宅なのがサ・高住（介護サービス付き高齢者賃貸住宅）です。病院がいいのか、施設がいいのか、住宅がいいのか……。自分で決められるのが幸せというか、日本は平和というか、ありがたいことなんだと思います。1950年・昭和25年頃は90%の高齢者が自宅でお亡くなりになつていました。逆にいうと医療も十分に受けられずご自宅で亡くなるしかなかったのだと思います。

これからは日本も欧米並に住宅と病院で50%ぐらいつのお亡くなりになるのが良いのではないのでしょうか。私はそう思います。尊厳死の制度のない日本ですが、私達高齢者が早い時期に病院か施設か住宅かを決めておいて、それをご家族に伝えておかないといけません。知らされていないとご家族は選択の余地がなく、日本の病院の延命治療だけになってしまいますね。

生命の終わりの旅立ち問題は難しいものです。病院での家族の延命治療を見ることは人生最大の耐えられない苦しみです。治療されている本人も意識がある限り治療の苦痛に耐え続けなければなりません。治療によって生き続けることほど苦しくて辛くて悲しいことはありません。運命だと思つて諦めるしかないのでしょうか……。

わくわく

夢

ニュース【高齢者住宅】

2017

4月

No.123

ゴールドエイジ 稲沢の定期活動

『笑っちゃ稲^{いな}』でみんな元気になろう!
お部屋に閉じこもりがちにならないように、
午後からはスタッフと一緒にいろんな活動を行っています。

